

けやき会通信

病気とうまくつきあいながらよりよい人生を

—当院糖尿病学習パス入院のご紹介—

関東中央病院 看護師 大嶋亜由美

現在、日本の糖尿病人口は約 950 万人と推定され、予備軍も含めると 2050 万人を超えるとも言われており 40 歳以上では 5 人に 1 人が糖尿病に該当するとされています。糖尿病は自覚症状がないまま病気が進行するケースが多く、放置しておくとう合併症が知らないうちに進行してしまうこともあり注意が必要です。しかし一方、見方を変えると、きちんと自己管理をすれば合併症の進行を予防することができ健康な方と変わらない生活を送ることができる病気でもあります。近年は薬の開発も進み、治療の選択肢も広がっています。

患者様が自身の病気について正しく理解しうまく付き合っていくために、当院では糖尿病学習パス入院を行っています。この入院では自身の糖尿病の状態（インスリン分泌能や血糖コントロール、合併症の状態）を把握し適切な治療を行うと同時に、医師を中心に CDEJ の資格をもった看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士などがそれぞれの専門性を発揮し糖尿病についての講義や指導を行っています。糖尿病がどんな病気かを知り、自身の治療方針を理解し自己管理の新たな一歩を踏み出す気持ちを持っていただけるよう各職種が工夫を凝らしてかかわっています。入院中、自身の病気に向き合い今までの生活を振り返りながら、「退院したらこんなことを取り入れてやってみようかな」とイメージが湧き今後の目標が立てられるようなお手伝いのできたらいいなと考えております。生活習慣を変えることは一人ではなかなか難しいこともありますが、入院をきっかけに同じ病気で悩んでいる患者様との出会いがお互いの励みとなることもあるでしょう。入院中はスタッフにも日頃の悩みや疑問など、どんどんご相談ください。

